

村 長	副村長	課 長	係 長	課 員	担 当

報 告 書

項 目 下吉地区「みらいトーク！」実施報告書

日 時 令和8年7月8日（水）18時30分～20時00分

場 所 下吉集会所

事 務 局 総務企画課長、企画係長、穴戸、大内、佐藤（路）

出 席 者 5名

1 目的

令和9年度から始まる第6次総合振興計画の策定に向け、下吉地区の現状や将来への不安、残したいもの、10年後に向けて必要な取組等について意見を聴取するため、下吉地区「みらいトーク！」を実施した。

2 実施概要

はじめに、村から第6次総合振興計画の策定趣旨や計画骨子の考え方について説明した。その後、参加者及び村職員が自己紹介を行い、地区との関わりや日頃感じていることを共有した。

意見交換では、下吉地区のビジョンマップを活用しながら、残したいもの、大切にしたいもの、心配なこと、今後あったらよいものなどについて話し合った。また、付箋を用いて意見を出し合い、地図上の場所や地区全体の課題・希望と結び付けながら整理した。

3 主な意見

（1）人口減少・後継者不足と地域維持への不安

子どもや孫世代が村外で生活しており、将来的に家を継ぐ人がいなくなるのではないかという不安が共有された。背景として、村内に戻っても仕事や生活の見通しが立ちにくいこと、住宅を整えるための費用負担が大きいことなどが挙げられた。

また、住民の高齢化が進む中で、草刈り、雪片付け、河川や道路周辺の管理、地域行事などを、現在の住民だけで担い続けることには限界があるとの意見が出された。

(2) 空き家・荒れ地と環境管理

地区内には空き家や管理が十分でない家屋、小屋、荒れ地があり、今後さらに増える可能性があるとの意見が出された。草木が道路へ張り出している場所もあり、景観だけでなく、安全面への影響も懸念された。

また、林や荒れ地が増えたことで、やぶ蚊などが多くなったことや、以前見られた昆虫が少なくなったことなど、身近な自然環境の変化を指摘する声もあった。

空き家や荒れ地は、状態が悪くなってからでは対応が難しいため、所有者の意向把握、管理、活用、解体等を早い段階から考える必要がある。

(3) 地域のつながりと交流機会の減少

以前は、食堂、婦人会や地域団体の活動、運動会後の集まり、ビアガーデン、芋煮会など、住民が顔を合わせる機会が多くあったが、現在はそうした場が少なくなっているとの意見が出された。

担い手の減少や高齢化により、従来と同じ規模や方法で行事続けることは難しい。一方で、飲食を伴う小さな催しや、若い世代や女性も気軽に参加できる話し合いなど、堅苦しくない交流の場を求める声があった。

地域のつながりを維持するためには、大規模な行事ではなく、準備負担を抑え、無理なく続けられる集まり方を検討する必要がある。

(4) 自然・景観と水辺の活用

下吉地区の良さとして、災害が比較的少ないこと、川やホテル、田園風景、山菜、会津一望の丘からの眺望などが挙げられた。

会津一望の丘については、会津盆地を望む見晴らしの良い場所である一方、木が伸びて眺望が見えにくくな

っているため、景観を保つための管理が必要との意見があった。

また、夏に帰省する子どもや孫、地域の子もたちが水遊びできる場所があれば、人が集まるきっかけになるのではないかという提案も出された。自然を大規模に観光化するのではなく、地域の暮らしの中で小さく生かす視点が重要である。

(５) 祭り・地域活動と外からの参加

諏訪神社の祭りや太鼓台、盆踊りなどについて、かつては参加に一定の決まりがあったものの、現在は地域外の人や子どもも参加しやすい形に変わってきているとの話があった。

地域内の担い手だけで行事を維持することが難しくなる中で、帰省者、地域外の人、子どもなども参加できる開かれた形へ見直していくことは、行事を継続するうえで重要である。

(６) 村内の生活圏の違いと施策のバランス

参加者からは、観光地である裏磐梯方面が多く取り上げられ、北山・下吉側の暮らしや地域資源が十分に扱われていないと感じるとの意見が出された。

村内でも生活圏や地域性が異なり、観光を中心とする地域と、農地や集落、日常生活の維持が中心となる地域では、必要とされる取組も異なる。

また、旧村間の交流が少なく、同じ村になって長い年月が経過しても距離を感じるとの率直な声もあった。今後は、村全体を一律に捉えるのではなく、各地域の実情を踏まえ、施策のバランスや地域間の交流を考える必要がある。

(７) 公共事業・構想の説明と行政への信頼

過去に示された「村の駅」構想について、実現に至らなかった理由や、その後の検討状況が十分に説明されていないとの意見が出された。

また、人口や子どもの減少が見込まれていた中で実施された公共施設整備について、将来の維持管理や利用者数まで考えて計画されていたのかという厳しい意見もあった。

計画や事業には、予算、土地、制度、住民合意などにより実施できない場合もあるが、構想の中止や変更

について説明がない場合、行政への不信感につながる。今後は、実施する事業だけでなく、中止、延期、方針変更となった場合にも、理由や検討経過を住民に分かりやすく説明する必要がある。

(8) 地域の自治意識と行政情報の周知

地域内では、住民が「村のため」と考え、長年にわたり草刈りや環境整備を自主的に担ってきたことが共有された。こうした地域を守る意識は、下吉地区の大切な力である。

一方で、無料のコミュニティバス、家庭菜園への支援、空き家の解体支援など、利用できる制度が住民に十分伝わっていないとの意見があった。

広報紙や回覧だけでなく、対象者への直接的な案内や、地区の集まりでの説明など、必要な人に情報が届く周知方法を検討する必要がある。

4 総合振興計画への反映に向けた視点

- ・若い世代が戻りやすい仕事、住まい、暮らしの環境づくり
- ・草刈り、雪片付け、河川・道路管理を持続可能にする仕組みづくり
- ・空き家や荒れ地になる前から相談、管理、活用を考える仕組みづくり
- ・地域の自治活動を尊重し、負担を地域だけに集中させない支援
- ・ビアガーデンや芋煮会など、気軽に負担の少ない交流機会づくり
- ・若い世代や女性、帰省者が参加しやすい対話の場づくり
- ・川、ホタル、会津一望の丘など、地域資源の保全と小さな活用
- ・祭りや地域行事を、地域外の人でも参加できる形で継続する仕組みづくり
- ・村内の生活圏や地域性の違いを踏まえた施策の検討
- ・公共事業や構想の中止・変更を含めた、検討経過の丁寧な説明
- ・支援制度を必要な住民へ確実に届ける周知方法の改善

5 まとめ

今回の対話では、人口減少、後継者不足、高齢化による地域管理の負担、空き家や荒れ地の増加、交流機会の減少など、下吉地区で暮らし続けるうえでの課題が共有された。

また、裏磐梯方面との生活圈や施策の違い、過去の公共事業や構想に関する説明不足など、行政に対する率直で厳しい意見も出された。これらは、下吉地区をより良くしたい、地域の資源を生かしてほしいという住民の強い思いの表れとして受け止める必要がある。

一方で、川やホテル、会津一望の丘からの眺望、災害の少なさ、地域の祭り、自ら環境整備を行ってきた住民の自治意識など、今後に残したい価値も確認された。

今後は、住民が担ってきた地域活動を尊重しながら、地域管理を持続可能にする仕組み、空き家への早めの対応、気軽に集まり笑い合える交流の場づくりを進める必要がある。

以上